

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー活用実績について、下記のとおり報告します。

担当部署の属性をお選びください

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	岩手県庁			代表者名	達増拓也
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	ふるさと振興部科学・情報政策室	連絡先電話番号	019-629-5247
担当者役職	主任	担当者氏名	佐々木 亘	連絡先E-mail	
住所	020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	生成AI利活用
概要	県内市町村を含めた行政職員に対する「生成AI利活用研修」の実施により、行政業務への利活用ケースを学習・体験することで生成AIの活用による業務効率化の底上げをしようとするもの。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 生成AI活用		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年7月11日	事前打合せ(オンライン)	13時00分	14時30分	
				活動時間（分）	90
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン		最寄駅	オンライン
	所在地	オンライン		最寄駅からの交通手段	オンライン

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	碓井 洋寿
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	本派遣の目的である「自治体職員の生成AI利活用のための素養の底上げ（研修実施）」の達成に当たって、実際に自治体職員として組織内の情報技術等を活用した行政改革に取り組んでおられる知見に基づいた適切なアドバイス・コメントを頂けた。 また、研修の主たる目標である「生成AIの利活用」だけでなく、その背景にある「DXによる業務改革」についても御理解が深く、多角的なアプローチによる支援を頂けると感じた。
アドバイザーへの要望事項	引き続き、お持ちの御知見により、事業の目標達成のためお力をお貸しいただければ幸いです。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	1人
	属性	自治体職員	住民
	人数	1	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	人口減少の進行により、県・市町村ともに行政を担う人材の確保が一層困難となる中、より複雑化・多様化する行政需要に対応し、県民・市町村民に持続可能で安定的な行政サービスを提供していく必要がある。本課題の活用可能なツールとして「生成AI」の利用による行政業務の効率化・自動化が考えられるところだが、一方で、生成AIの利用状況には差があり、組織間の格差だけでなく、職員間の格差も大きく存在している。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	県内自治体職員を対象とした「生成AI利活用研修」を実施(支援)していただき、「県内の行政職員が生成AIを行政業務に利用することで業務が効率化・簡略化できることを理解し、日々の業務の中で生成AIを活用できる下地が形成されること」を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	下記事項について、アドバイザーと事前打ち合わせを行った。 (1)岩手県における生成AIの利用・活用状況と依頼する「生成AI研修」の趣旨の説明 県内市町村における生成AIの業務への活用状況を事前に収集したアンケートを踏まえや市町村職員におけるIT部門の状況(市町村感に格差が生じていることなど)をお伝えし、今回依頼する研修のレベル感やターゲットについて共有した。 (2)実地派遣日(研修実施日)における移動やタイムスケジュールの調整 実地派遣場所への移動手段や前後の予定(前泊・後泊等)について、県内の最適な移動方法などを御説明しつつ、タイムスケジュールのすり合わせを行った。 (3)アドバイザー所属組織(北海道当別町)における生成AI、DX等の取り組み状況の御紹介 アドバイザーが実施する組織内での取組みを御紹介いただくとともに、組織/職員の考え方を変えていくためのアプローチについても意見交換を行った。 これらの中で、これからの行政のあり方を踏まえて「DXの考え方(ツールを導入するのではなく、どう業務を変えていくか/職員がどう変わっていく必要があるか)」も伝えながら、生成AIの必要性に繋げていく内容について提案いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	実地派遣にて依頼する研修にて参加者に伝えていただきたい事項を共有し、目標達成のためのすり合わせを実施したことで、研修内容の方針を明確化した。また、当日の移動・タイムスケジュールについて調整し、研修会実施に当たっての対応計画が明確化された。 また、派遣目的である「生成AIの利活用」に関する内容だけでなく、今後の行政職員に必要な「DXの考え方」の下地を作るための内容も内容に追加してはどうか、という提案をいただき、より効果的な派遣対応(事業内容)に昇華することができた。 その他、アドバイザーの取組みを御紹介いただき、派遣依頼元の組織にも活かせる取組みや知見を得た。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	①事業に係る計画書等を策定できた
	2回目、3回目の実地派遣において実施する研修の内容についてすり合わせを行い、研修内容の最適化を実施した。また、当日の移動方法やタイムスケジュール(いわゆるロジ)について調整・計画を立てた。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	3回目の実地派遣(11月を予定)については、実地研修場所の予約期間では無いため確定できていないことから、場所を確保でき次第、講師に共有する(派遣依頼元＝岩手県の対応事項)。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	1回目派遣(オンライン)においては、2回目・3回目の実地派遣のための打合せを行っているため、アンケート等は実施していないもの。実地派遣時には参加者にアンケートを行う。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
	(1)10月20日(月)：第2回派遣 ※当初予定では10月22日(水)だったが、研修場所を確保できなかったことからアドバイザーと協議の上調整。別途派遣制度事務局に日程変更の申請を実施する。 (2)11月10日(月)：第3回派遣	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	本事業における最終目標は、「県内の行政職員において生成AIを行政業務に利用することで業務が効率化・簡略化できることを理解し活用できる下地が形成されること」であり、形成された下地により行政業務の効率化・自動化が図られていき、将来的には住民への持続可能で安定的な行政サービスを提供を目指す。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	☐ 掲載可
------	---------------------------

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

